



平成8年7月20日
武蔵野新聞
水戸市
TEL. 3700-3157

号第
行
第

谷沢川源

約60数年前、未だ竹藪や雑木林、麦畑や陸稲畑、田が帯状に上り傾から中丸へと連なる頃、現在の上用賀6丁目22ノ3番にまたがる附近に、余り大きな池がありません。

先輩の話では、中には小島があり水が2本生えていて、湧水も多少あった様だが、宇山方向の高台地から雨水などが流れ込み、溜池と言った方がよさそう。

耕地整理(昭和11年)の頃、おとな達大勢で、池を埋立てるためコイやウナギを沢山すくいあげていた事を覚えていられる人もいます。

近くには野菜の洗場があり、出荷のための貴重な用水であった事も事実のようです。

今では、その面影は全くなく、整然とした住宅地の間を暗渠化されて、見る事はできませんが、この下に脈々と流れている用水の歴史があることも、憶えておいてほしいと思います。

(取材 柳田×)

谷沢川暮情

田舎子 鈴木 興二

澄みきった青空、春の小川の岸辺には草や花の芽に混じり、スミレ、タンポポが可憐な花を咲かせ、青く流れる小川の川面にはミズスマシや川エビ、吸虫、ヒルなどが泳ぎ回り、川底にはイモリが時々赤腹を覗かせながら泳ぎ廻っている。また、気持ちよく泳いでいる体長六、七センチの鮒は物音がすると系むらに……。

ドジョウは川底の土の中へと隠れる。

この小川こそ、昭和十年頃の、上用賀向田圃周辺を流れていた改修前の谷沢川の姿で、今では魚も棲めぬ川となっている。



瀬田・谷沢川

瀬田子 長崎 盛

昭和の初めに瀬田小から大井町線の鉄橋まで、谷戸と言われる窪地があった。瀬田小から数百メートルが田んぼになっていて谷戸田と呼ばれていた。「ドジョウ」もいたし「ホタル」もとんでいた。瀬田小正門附近の地下、中学校裏の南端から湧水があり、それが水溜だった。

現在の上野モカデンハウスの辺り、田んぼの埋め残りに水がたまり、東瀬池と名付けられ、戦後の子供たちの遊び場となり、「ザリガニ」釣りの名所だった。



治大夫堀

五郎 鈴木 好反

水を語るにおいて玉川町は治大夫堀を忘れるわけにはいかない。

毎年、台風の前には増水して堀の端まで水が上がり、一帯一帯、過去何回となく水害をもたらした川である。

江戸開府以来、流れ続けている水であるが、これが人工の泉水であり歴史的な文化遺産である。

終戦直後の一時期は、水もぎれいて「現」や「烏貝」や小魚が泳ぎ、子供が水遊びする風景があらうて見られ、釣った小鮒を煮に扱けてやると「鮒」がもらいに來ていた話もある。

谷沢川雨水トンネル

男 鈴木 弘一

西上用賀通りの地下20ノ30の雨水貯水溝トンネル工事を見学したのは平成5年11月下旬、町会役員20数人が招かれ、堀の縦断を深く下がり、直径4ノ5州程のトンネルの中を工事責任者の案内で歩きました。

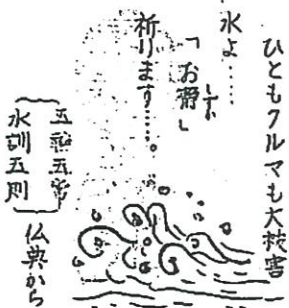
堀川進むと新玉川線の下、更に30州位で用賀出張所、右にカーブして堀川で引き返しました。

堀川は、堀川四方、深さ3ノ4州の大アール位です。大雨の時、一雨釣に雨水、谷沢川の水量が下がつてからポンプで出すという系統との工事、もたれには終り、この秋に安心して住める町となるでしょう。

浮世の水

鈴木 武一

三輪五帝のきまりから水訓五則がのしえます。一滴の水あつまって、清い冷たい溪谷となり、池に落ちた……軒余曲折山から村を通りぬけ、田畑うるおし幾山河、曲りくねって世をつくり、海に着くまで長びくと喜ばれたり邪魔したり、生命とつたり助けたり、ながれ流れの旅がらすふと佇んだ、夕まぐれ、思い出します昨日今日、去年オウムで大さわぎ、今年イヤ犬猫大事件、ワンとも吠え、九万円、埼玉県警おあすかり、ジツと待てる銅主は、秋にや黙って俺のもの、犬猫なまのトビックス、下みて歩いて気付いたら、上用賀タワーを眺めてた、谷沢川やら田中橋、此処はおいらの遊び場だ、鯉鮒どじょう鰻とり、秋、洪水のあった頃、刈稲ながれてサア大変、玉電とまった事もあろ、昭和文文化が始まって、山林、田畑、大整理、堀の池、まで消えちゃった、六根清淨……雨をいも、今じゃ古来の誇りくさ、水の力はおそろしい、怒れば橋、ビル、みな流す、ひともフルマも大被害、水よ……、祈ります……。



五輪五帝
水訓五則
弘一から

